

共生の時代

みどりの地球を
みどりのままで

2013 10月

■発行：グリーンコープ共同理事会
■編集：共生の時代・編集部
■〒812-8561
福岡市博多区博多駅前一丁目5番1号
ヒューリック博多ビル3階
TEL 092 (481) 7923
FAX 092 (481) 7876
<http://www.greencoop.or.jp/>

Contents

神在太陽光発電所 完成記念講演会	2
ひろしま発 設立20周年記念 大試食交流会	3
自然エネルギーによる 発電所づくりを力強く すすめます	4・5
高橋徳治商店 新工場完成! 宮城県 女川産養殖銀鮭が登場!	6
グリーンコープの輪・和・環 グリーンコープ生協(長崎) 廣瀬美由紀さん	7

元気くんが「ゆるキャラグランプリ
2013」にエントリー中!!

(詳しくは8面で)

別紙にて、「放射能汚染と向きあう(放射能測定室より)」を掲載

いよいよ歩み出した 市民による発電事業

9月8日、「神在太陽光発電所」の竣工セレモニーと完成記念講演会&シンポジウムが、グリーンコープ共同主催で福岡県糸島市にて行われました。当日は、糸島市や地域住民のみなさん、設計・施工業者、グリーンコープ関係者などが参加し、市民による発電事業の記念すべき第一歩を祝いました。(2面、4・5面に関連記事掲載)



左から松本糸島市長、グリーン・市民電力 行岡副会長、グリーン・市民電力 田中会長、グリーンコープ生協ふくおか 大橋理事長、(株)九電工 荒木福岡支店長

神在太陽光発電所
竣工セレモニー

末永く糸島の シンボルとして

糸島市
松本 嶺男市長



国でも、電力会社でも、大手の企業でもない、市民の力で発電設備をつくられた皆さんに敬意を表します。

糸島市は玄海原発まで直線距離で約30km。少しでも原発の比率が下がるようにと、さまざまな自然エネルギー発電に取り組んでいます。今後とも末永くお付き合いください。心から歓迎します。

組合員の夢、脱原発 社会を実現するために

一般社団法人グリーン・市民電力
田中 裕子会長



4000枚以上の太陽光パネルが並ぶ中、今ここに、こうして立てることにとっても感謝しています。これまで糸島市や地域、施工業者の皆様にご理解とご協力をいただき、今日の日を迎えることができました。

今後も夢の実現に向かってオールグリーンコープで取り組んでいきます。

完成記念シンポジウム

同じ方向を向く仲間ネットワークをつくらう

神在太陽光発電所の完成を記念して、パネルディスカッションが行われた。田中会長はグリーンコープ代表理事として、自分たち

左から
コーディネーター
飯田哲也さん(環境エネルギー政策研究所所長)
パネラー
田中裕子さん(グリーン・市民電力会長)
矢野正文さん(糸島市役所生活環境部)
大橋由美子さん(ふくおか理事長)
大橋年徳さん(グリーン・市民電力専務理事)



地域住民のみなさんをはじめ糸島市や施工業者などの協力により発電所を完成できたことを、会場に集まった多くの人たちが共有することができた。最後に飯田さんが「新しいものをつくる時にはさまざまな力が必要。そこで生まれる信頼関係を継続させ、積み上げていきましょう。日本全国で同じような思いで頑張っている人たちがいます。グリーンコープもぜひ仲間に入っていただき協力し合っ

て大きなネットワークにしていきましょ」と締めくくった。

が使うエネルギーを自分たちでつくり選べるようになることは、自分の中でも社会にとっても矛盾のないこと。全国の生協と連携して自然エネルギーを広げていけば、未来の子どものために原産という負の遺産を残さない社会をつくれると思います」と、この取り組みにかける思いを語った。大橋理事長は糸島市をエリアにもつ単協の立場から「グリーンコープが市民発電に取り組むことは、私たちの安心・安全な食へのものを守ることに繋がります。食への運動のひとつとして、ていねいに組合員に説明し、理解を得るための取り組みがはじまっています」とふくおかでの検討のようすを語った。

神在太陽光発電所 完成記念講演会

現実的な政策提言と積極的な活動により自然エネルギーの第一人者として知られる飯田哲也さんを講師に招き、話を聞きました。講演の要旨を報告します。

日本そして世界における再生可能エネルギーの現状と展望

— 原発事故後の状況とその問題点について —

福島原発事故後の問題は、何ひとつ解決していない

現在マスメディアや政府、経済界では原発問題を表立って議論しない風潮にあるが、実は問題はひとつも解決していない。福島第一原発の汚染水の問題は断片的な報道しかなく、タンクから漏れ出している他にも、原子炉の下を通る大量の地下水が汚染され直接海に流れ込んでいる可能性が高い。東京電力は凍土壁で遮断すると言っているが、常に凍らせるために大量の電気を必要とし、しかも何十年も冷却し続けなければならぬ。電源喪失によって凍土が溶ける可能性もある。汚染水問題を始め事故の収束の目的は全く立っておらず、状況はますます悪化する一方。他にも使用済み核燃料、新規制基準、進ま

ない電力市場改革など、再稼働の前に議論すべき問題は山積している。

原発がないと経済がもたないか

多くの国民は「原発はいつかはゼロに」と望んでいる。今後廃炉にしていくためにどうしたらいいのか、国民投票するなどして脱原発に向けてのプロセスを考えていかなければならない。

推進派の人は、原発がなければ経済が衰退すると言っている。果たして本当か。

事故後、節電・省エネに関して国民の意識は変わり、企業のエネルギー対策は進歩してきた。事故直後は電力供給側から節電のため我慢を強いられ、経済にマイナスの影響を及ぼしたが、今では、ピーク時の管理をした上で電気を効率よく利用すれば、生産量を落とさずに電気代を節約して経営的なメリットがあることがわかってきた。

そもそもエネルギー消費量と経済は比例すると考えられてきたが、それは発展途上国の話。成熟した社会ではエネルギー消費と経済成長は切り離せる。事実ドイツではGDP（国内総生産）は増加しているにもかかわらず

図1

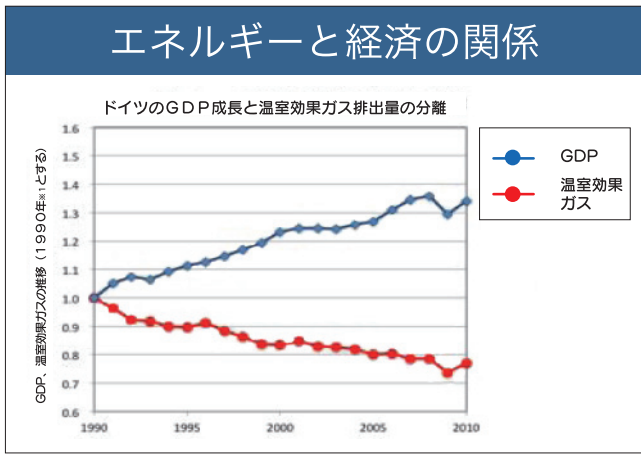
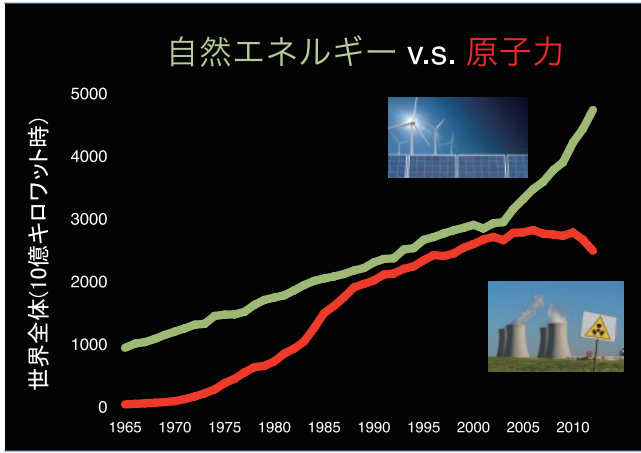


図2



ず、エネルギー消費量は減少しCO2排出量も減っている（図1）。

また、原発はコストが安いと言っているが、実は高い。事故時の損害賠償と事故処理費は、本来ならば電気料金の値上げや税金などで国民から取るのでなく、電力会社がかけた保険から支払わなければならない。電力会社が保険料を電気料金に乗せると、1kW当たり現在の24円程度から6000円に跳ね上がり、一世帯の月の電気代は20万円近くにもなるという試算がある。原発は非現実的で使えないものにならないということだ。建設コストも上がる一方で、

経済的にも合わない。一方、世界中の企業努力で自然エネルギーに関する技術開発が進み、太陽光や風力の発電コストはどんどん下がっている。いずれはガスや原油による発電コストを下回るようになるだろう。そして、誰もが発電に参画できるようにするとエネルギーの独占もなくなる。原発が存続することはこの革新を阻み、経済的にもマイナス要因となる。

ている。火力や原子力を中心としたエネルギーは、自然エネルギーへとダイナミックにシフトしている。世界の風力、太陽光をはじめとする自然エネルギー発電はこの10年ほどで加速度的に増加している。特に風力発電の伸びはめざましく、昨年一年間に増えた発電設備容量は原発47基分。他方、原発は2006年をピークに減少を続けている。世界中が自然エネルギーに投資することで技術革新が進み、自然エネルギーへのシフトはますます加速している（図2）。

また、発電設備は電力会社の独占による集中型から、地域分散型の小さな

自然エネルギーで地域経済が活性化

自然エネルギーの発電所を国の補助金や東京の商社と組んでつくっても、地域の経済メリットは限定される。しかし、地域の人々が所有し自分たちの手でつくると、計画から建設、売電と継続的に仕事をつくる事ができる。利益は地域の中で循環し、豊かな地域経済をつくりあげることができ

る。エネルギーは地産地消ならぬ「地産地消」が重要だ。

いま、日本中あちこち

で地域の人々が立ち上げた発電が始まり（コミュニティパワー）、その気運が高まっている。さらに、多様な地域の特性を生かし、地域のエネルギーを供給する側と、自然エネルギーを選択する需要側のネットワークが広がれば、地域エネルギー革命が実現する。

21世紀は地域分散型の自然エネルギー、省エネの時代。3・11の事故をきっかけに、日本人全体が原発の安全神話が崩壊したこと、エネルギー革命が世界的に進化していることに気づくことができた。これを、社会を変えていくターニングポイントにしていければと思う。



NPO法人環境エネルギー政策研究所 所長 飯田哲也さん

山口県生まれ。原子力産業や原子力安全規制などに従事後、「原子力ムラ」を脱出し北欧での研究活動などを経て現職。日本政府や各地の地方自治体のエネルギー政策に大きな影響を与えている。

人類史「第4の革命」自然エネルギー

自然エネルギー利用の拡大は、農業革命、産業革命、IT革命に続く、人類史第4の革命と言われ

ている。火力や原子力を中心としたエネルギーは、自然エネルギーへとダイナミックにシフトしている。世界の風力、太陽光をはじめとする自然エネルギー発電はこの10年ほどで加速度的に増加している。特に風力発電の伸びはめざましく、昨年一年間に増えた発電設備容量は原発47基分。他方、原発は2006年をピークに減少を続けている。世界中が自然エネルギーに投資することで技術革新が進み、自然エネルギーへのシフトはますます加速している（図2）。

コミュニティパワー Community Power

- ① 地域のオーナーシップ
- ② 地域が意思決定する
- ③ 地域が便益を共有する

※1 2013年7月に施行された新しい規制基準に沿って再稼働の審査がされているが、基準そのものが妥当なものか疑問。
※2 電力の小売全面自由化と発送電分離を含む改革法案は、参議院選挙前に成立せず、秋の国会でも成立するか不確かな状況。

グリーンコープ生協
ひろしま発



理事が考えたロゴマーク。20周年記念行事のちらしや理事の名札にも使われている



ありがとう! ひろしまは20歳!!

～未来に残そう 大事ないのち～

ひろしまは、2013年で設立20周年を迎えました。それを記念して7月13日、大試食交流会が開催され、組合員など500人が参加しました。理事長 熊野千恵美さんと理事のみなさんに話を聞きました。

20周年記念行事を、組合員がグリーンコープを語るきっかけにした

2012年10月にプロジェクトチームをつくり、設立20周年記念行事の検討をすすめてきました。まず、活動組合員約70人で、ひろしまの20年の歩みを振り返る学習会を開催しました。ひろしまの組合員が約2万人に増えたことで、いろいろなことが実現できるようになったと、参加者が実感する学習会となりました。

試食だけでなく、人と人の交流で盛り上がった

広島市内で開催された大試食交流会は、組合員アンケートで選ばれた、グリーンコープ商品24点が登場。メーカー毎のブースを、参加者が試食して回りました。メーカー担当者が商品のこだわりを説明する横で、組合員がおいしい食べ方を教えたり、参加者からの質問を受けたりする場面もありました。若いお父さんが、子どもを抱っこして試食している姿や、説明を熱心に聞くご夫婦の姿もありました。組合員と

参加者、組合員とメーカー、組合員と組合員...と、試食を通して様々な交流が実現しました。参加者からは「花かつおにみそとお茶を入れた「茶ぶし」って、かつおぶしの風味がいいわ」「生芋板こんにゃくは、下ゆでしなくても食べられるのね」「刺身用あじフィレって脂がのっている!」と、試食も大盛況。会場は参加者の熱気に包まれました。また、各委員会がそれぞれの活動を紹介します。コーナーも設け、グリーンコープの商品や活動をアピールしました。

組合員の思いを繋げ広げていきたい

ひろしま理事長 熊野千恵美さん

サブタイトルを「未来に残そう大事ないのち」としたのは、20年間ずっと貫かれていて、グリーンコープ生協ひろしまの組合員の思いだと考えたからです。20周年記念行事を考えるにあたって、組合員アンケートで、どんな講演を聞きたいか尋ねたところ、「いのち

というキーワードが見えてきました。組合員の思いは、今も繋がっている」と再確認しました。大試食交流会に参加して、「おいしかった」「メーカーと話せて良かった」と感動した組合員は、その思いを周りの人たちに伝えたくないと話します。また、産地を見学したり生産者から直接話を聞くことで、体感したこだわりの人や生産者の思いを周りの人に伝えたいと、そういう機会を増やしたいと考えています。ひろしまは、これからも元気に活動していきます。

グリーンコープの福祉用品を知って欲しい

地域福祉委員会

他単協のまつりのようすを参考に、福祉用品を展示しました。参加者に関心をもってもらえるよう、ポップを工夫し作成しました。握力が弱って使える箸を紹介するコーナーでは、委員のアイデアで豆を用意。楽しそうと子どもたちが箸で豆をつまみに集まりました。展示品のパジャマやおむつなどを手にする参加者も多く、グリーンコープの福祉用品をアピールできました。

せっけんとリユースびんを通して環境のことを考えたい

くらし委員会

産直びん牛乳と産直米の定期予約をすすめていきたい

おすすめ委員会

せっけんを使った換気扇フィルターの汚れ落ちが、ひと目で分かるように展示し、せっけんの良さをアピール。また、いろいろなびんを用意し、実際にリユースびんを分別してもらいました。間違えて出していたことに気がついたという組合員もいて、もっとリユースびんの取り組みを伝えることが必要だということがわかりました。参加者と環境について考える機会になりました。

大きなイベントははじめてだったので、広いスペースの使い方やアピール方法、試食のおにぎりの数など開催ギリギリまで検討を重ねました。雪印メグミルクの方と一緒に産直びん牛乳の試飲を行いました。話を熱心に聞く人も多く、びん牛乳はすべてなくなりました。牛乳の良さが伝わったと思います。参加者へ定期予約も呼びかけました。



後列左から地域福祉委員長 反岡佐千代さん、理事長 熊野千恵美さん、組合員活動事務局長 林和子さん、前列左からおすすめ委員長 藤原秋代さん、くらし委員長 井上聡子さん



福祉用品のお箸を使って、豆をつまんでみる子どもたち

せっけんの説明を真剣に聞く参加者

お米の定期予約のアピールで用意したおにぎり

安心してできる未来を 子どもたちに

自然エネルギーによる発電所づくりを 力強くすすめます



これまで、私たちは子どもたちの生命を守るために、安心して安全な食べものを生み出してきました。電気も同様にみんなの思いと力を寄せ合せて、太陽光や風力による発電所をグリーンコープエリア内の各地につくることにしました。その第一号である神在太陽光発電所が2013年9月1日から売電を開始しました。

現在、各単協の「秋の組合員のつどい」で、発電事業を支える「グリーンコープ・グリーン電力出資金(以下、グリーン電力出資金)」への参加を多くの組合員に呼びかけています。

「グリーンコープ市民発電所物語」(GREEN 28号 9月23日から配布)や「グリーンコープ・グリーン電力出資金」(GREEN 29号 9月30日から配布)の案内チラシなどでも、詳しい案内をしています。

自然エネルギーによる 発電所をつくらう

1986年のチェルノブイリ原発4号炉の事故は、世界に大きな衝撃を与えました。1988年に設立したグリーンコープは脱原発を方針に掲げ、脱原発政策を策定。原発に頼らない社会をめざして活動を続けてきました。

しかし、その後も日本では原発がつくられ、処分方法もない高レベル放射性廃棄物を排出し続けています。そして2011年の東京電力福島第一原発事故はチェルノブイリ原発事故に匹敵する規模。私たちの暮らしは一変してしまいました。未だに放射能汚染は収束の目途も立っていません。

グリーンコープでは、これまで電気を国や電力会社に任せっきりだったことを反省し、市民自らが主体的にエネルギー問題を考え、取り組んでいくことで、原発に頼らな

い社会への一歩をすすめるよう考えました。

2012年、グリーンコープは「一般社団法人グリーン・市民電力」を設立。自然エネルギーによる発電所の建設に着手しました。

人の絆・結びつき・連帯 が未来をつくる

福岡県糸島市神在地区に自然エネルギー発電所を建設するに至った経緯には、グリーンコープ生協ふくおか所有の保養所「遊学山荘」が老朽化したことにあります。「遊学山荘」は、グリーンコープ連合初代専務故重さんの「人の絆・結びつき・連帯が未来をつくる」という思いのもとに、グリーンコープの前身生協が建設したものです。その思いを受け継ぎたいと、「遊学山荘」のある糸島市から自然エネルギーによる発電所をつくりはじめました。

当初エネルギー変換効

率のよい風力発電ができないかと調査しましたが、風況が適さず太陽光発電所の建設地を探すことになりました。用地の選考に苦慮する中で、神在地区にある自動車学校跡地が見つかりました。糸島市や神在地区のみならず、丁寧な説明を行い、地域のみなさんと共に守り育てることができるよう発電所となるよう努力を重ねました。用地周辺の整備や工事のために地域の生活道路を使用しないよう、工事用仮設道路もつくりました。そうした中で「これまで子どもたちの発電所の見学と言ったけれど、太陽光発電所ができれば、ここに見学に来れますね」という声が聞こえるようにもなりました。そして、15年も放置され、雑木や雑草に覆われていた自動車学校跡地には、現在4228枚のパネルが太陽の光を受け発電しています。

敷地内に建設される研修施設(2014年春完成予定)は、自然エネルギーによる発電についての学習ばかりではなく、この地に建設された意味も伝えていく場となります。

グリーン電力出資金に参加し、みんなで支えよう

神在太陽光発電所には7月から、各単協で活動している組合員が視察に訪れています。現地では建設の経緯を含め担当者による丁寧な説明があり、

「自分たちの地域でもつくれないだろうか」「パネルはリサイクルできるのだろうか」などの感想や質問なども出され、熱心な視察が行われています。視察した活動組合員によるグリーン電力出資金への参加の呼びかけが、現在、各単協の「秋の組合員のつどい」などで行われています。10月からは、各単協での地域組合員を対象にした見学も企画される予定です。

自然エネルギーによる発電所は、今後10年間で、グリーンコープのエリア内に10ヵ所建設することをめざしています。また、物流センターや各単協の屋根に、太陽光発電のパネルを設置する検討もすすめられています。市民が持てる力を寄せ合せて自前の発電所を持つということは、原発のない社会の実現に向けて、大きな一歩を踏み出すこととなります。各単協では自然エネルギーによる発電所の建設について検討がすすめられています。九州圏内の各単協では風力発電所、太陽光発電所の建設の可能性を探りながら具体的な検討もはじまりました。

東京電力の原発事故による放射能汚染は延々と続いています。子どもたちにもどりのままの地球を残すためには、今を生きている大人たち一人ひとりが行動を起こしていかなければなりません。グリーン電力出資金への参加は、その一つの実践でもあります。

Q 太陽光発電所の運営はどこがするのですか

A 事業を運営するのは、2012年10月、組合員の総意を得て設立した一般社団法人グリーン・市民電力です。発電所の設計や建設、その後の保守やメンテナンス・管理などは、風力発電所や太陽光発電所の建設・運営で実績のある九電工の協力も得ながらすすめていきます。

Q 自然エネルギー発電は風力と太陽光以外にも、小水力などもあると思いますか

A ・小水力発電は比較的输出力が小さく、地域の水資源を地域で活用するものが多いようです。また、水利権や河川法による規制があり、その地域で活用されるほうが効率がよいのではないかと考えます。

・バイオマスは発電に使用する燃料や調達方法によって、発電設備を考えるということになります。

・地熱発電も地域での活用が基本と考えます。また、熱源の枯渇など一定のリスクがあり熱源を長期的に利用できるか慎重な調査が必要です。

・風力発電や太陽光発電は、自然にあるエネルギーをそのまま利用する発電システムです。条件（地域との関係も含め）が整う場所を探すことができれば事業化が可能だと考えました。

Q グリーンコープの発電事業で得られる電力を九州電力に売電することは、原発を容認することにはならないでしょうか。グリーンコープの中で活用することはできないでしょうか

A 何よりもまず、原発に頼らない社会の実現のために、市民による自然エネルギー発電に取り組むということ、を、最優先で考えました。神在太陽光発電所については、一旦、九電に売電しますが、今後、特定規模電気事業者（PPS）を通して、グリーンコープの施設でその電気を利用できるように準備をすすめていく予定です。

また、2016年を目途とした電力の小売全面自由化や2018年から2020年を目途とした発電と送電の分離が、国で検討されてきた経過があります。その進捗を見極めながら、組合員に電力の供給ができるように準備をすすめていきたいと考えています。そのためにも、今後もグリーンコープのエリアに風力発電所や、風況が望めないところについては、太陽光発電所の建設をすすめていきます。原発に頼らず自分たちが使う電気は自分たちで発電していきたいと考えます。

Q 厳しい経済状況の中で、出資を求めるより、もっと別の視点での自然エネルギーへのアプローチはできないのですか。例えば組合員宅に太陽光パネルを設置するとか。広い用地の確保は、好ましくないのでは

A ・アプローチの方法はいろいろあります。自宅の屋根にというもひとつの方法だと思います。

・今回の取り組みの大きな意味は、国や電力会社任せにしてきた電力事業を、私たち市民が主体となって取り組み、エネルギー問題を考えていくということです。原発に頼らないために、自然エネルギーによる発電所を私たち自身が出資して自分たちのものとして建設する。未来の子どもたちの生命に、今を生きる大人たちが責任を負うために、現実的な行動を起こそうという思いを込めた構想です。

**組合員からの
質問に
答えて**



これまでの検討などで
出された主な質問

Q 太陽光発電のパネルを製造するときに使われているレアメタルを使用せずに、パネルを製造しているメーカーを探して欲しい

A レアメタルを使用しない太陽電池技術の開発がすすんでいるという報道もあります。今後は、そのような技術、製品での事業化の調査もすすめていきます。

Q 太陽光パネルに反射した光の害(光害)は大丈夫ですか

A 家庭の屋根に設置された太陽光パネルの反射光がビルに反射したり、メガソーラーの反射光が道路を走っている車や飛行機に反射したりという被害が起きています。また、反射光が農作物に当たることで、過剰な熱を加えることになる被害も発生しているようです。今回は、発電所の周辺の地形や周りの家屋、農地の状況、太陽の光が入る角度や反射する角度を考慮して、太陽光パネルの角度や向きを検討して設置しています。実際に発電がはじまってからも問題は起きていません。



熱心に視察する組合員

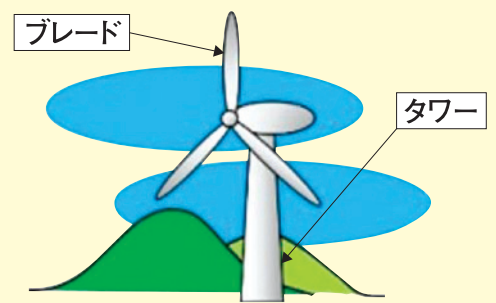
Q 太陽光発電所のシステムの耐用年数はどのくらいなのですか

A 発電所施設の稼働年数は、風力発電も太陽光発電も20年(減価償却は17年)の計画です。しかし、その後も補修や部品の交換などを行って、事業を続けることができます。

Q 施設やパネルの廃棄についてはどうなるの

A ・太陽光発電の場合、主な部材は、金属（架台他）やガラス、シリコン、レアメタル（パネルにごく少量使用）です。このうち金属はリサイクルできます。現在、使用済み太陽光パネルは、北九州市と地元企業などで有効活用のための技術開発がすすめられています。また、国の機関でも研究・開発が行われています。

・風力発電の場合、主な部材は金属（タワー他）とFRP（繊維強化プラスチック。ブレード他に使用）。現在、金属もFRPも、大部分はリサイクルできます。FRPは、セメントの原料やFRPとして再利用するなど、リサイクルできるようになっています。



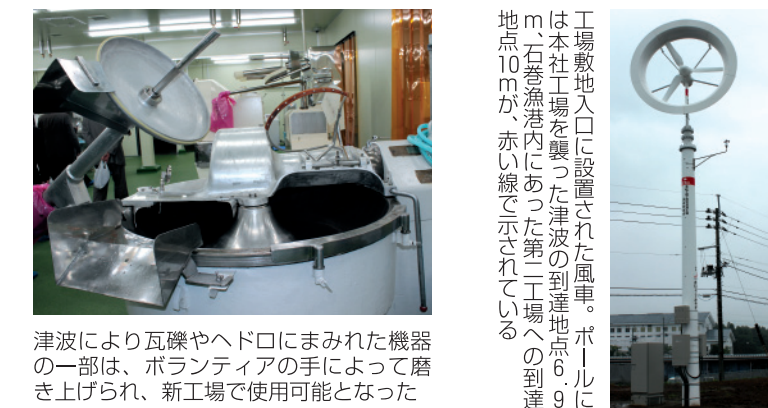
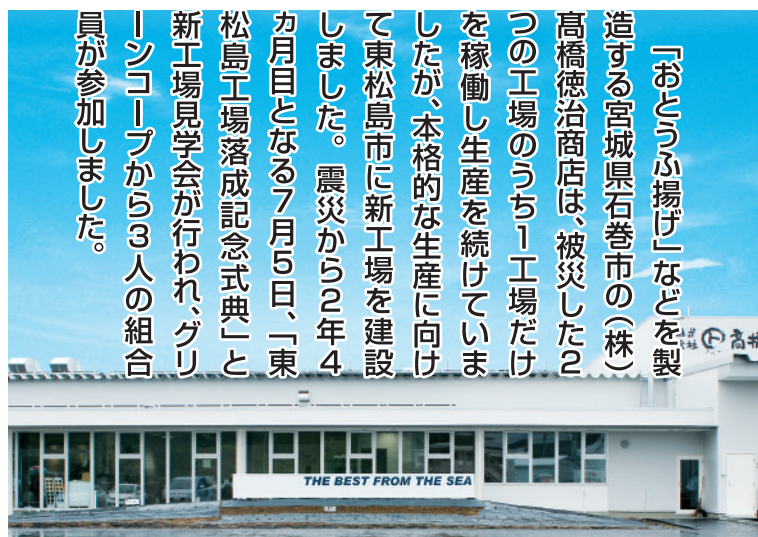
Q 太陽光発電では電磁波の心配はないのですか

A 太陽光パネルで発電する電気は直流なので、電磁波はほとんど発生しません。発電所内には、直流を交流に変換したり、送電するために電圧を換える機器を設置しています。そこで電磁波が生じますが、太陽光発電所は、「通常の使用状態において、当該の電気機械器具等からの電磁誘導作用により、人の健康に影響を及ぼすことがないように」と定められている基準に基づいて建設しています。実際発生する電磁波はドライヤーや掃除機よりも低いレベルです。



これからも、グリーンコープは被災地のメーカーを応援していきます!

高橋徳治商店 新工場完成!



「おとうふ揚げ」などを製造する宮城県石巻市の(株)高橋徳治商店は、被災した2つの工場のうち1工場だけを稼働し生産を続けていましたが、本格的な生産に向けて東松島市に新工場を建設しました。震災から2年4カ月目となる7月5日、「東松島工場落成記念式典」と新工場見学会が行われ、グリーンコープから3人の組合員が参加しました。

工場敷地入口に設置された風車。ポールには本社工場を襲った津波の到達地点6.9m、石巻漁港内にあった第二工場への到達地点10mが、赤い線で示されている。

津波により瓦礫やヘドロにまみれた機器の一部は、ボランティアの手によって磨き上げられ、新工場で使用可能となった

震災を乗り越え再出発

—落成記念式典—

この地の光になる!

式典には、これまでの支援者を含む300人近い関係者が駆けつけ、新工場が地域の復興モデルとなることへの大きな期待が寄せられた。

高橋英雄さんは挨拶で、「多くの人にあの震災を我がごとのように感じてほしい。被災地では、悲しいこと、辛いことなど



代表取締役 高橋 英雄さん
津波被害のヘドロの中から唯一見つかったネクタイを締めて挨拶

社会のあらゆる問題が凝縮して起こっています。何ができるのかしっかりと考えて、皆さんにアクションを起こしてほしいと思います。私たちは被災地で、この地の光になります!工場に命を吹き込み、商品に命を込めると、復興に向けた強い思いを語った。

ともががんばっぺ!

グリーンコープからの参加者、おおいた理事長塩月恵子さんが「ここに至るまでには大変なご苦労があったと思いますが、これからが正念場だと思っています。応援したいと思います。私たちが一緒に頑張っていくてください。高橋さんには笑顔

が似合っています。「宮城がんばっぺ」「高橋徳治商店、がんばっぺ」との思いをこめたメッセージです」と、組合員から寄せられた寄せ書きを、共同商品検討委員長 手島真理子さん、くまもと副理事長 中村千暁さんと一緒に手渡した。



左から、塩月さん、高橋さん、中村さん、手島さん



女川産養殖銀鮭

新たな復興応援商品

宮城県 女川産養殖銀鮭が登場します!

—養殖場を組合員が視察しました—

2013年夏グリーンコープは、風評被害などで取引価格が暴落し、生産が継続できなほど厳しい状況となった、宮城県女川町の養殖銀鮭の生産者と出会いました。養殖銀鮭を取り扱うにあたって産地や飼育内容を確認するために、組合員を代表して共同代表理事の田中裕子さんをはじめ、関係者が養殖場を視察しました。



水揚げされたばかりの養殖銀鮭を抱える、生産者の小松さん(右)と田中代表理事

安全でおいしい銀鮭

養殖銀鮭はホルモン剤や抗生物質を使用せず、できるだけ環境に負荷をかけない方法で飼育されている。また、エサにジンジャー・ナツメグ・オレガノ・シナモンの4種類のハーブを入れて鮭特有の臭みを軽減させるなどの工夫をしている。養殖銀鮭はくせが少なく、脂がのってしつとりとしているため、刺身用として人気が高い。そのまま

安定した出荷が復興の鍵

東日本大震災前の女川は、サンマの水揚げに加えて、銀鮭の養殖が盛んな活気のある漁港だった。

でも塩麹や酒粕に漬けて込んで焼いてもおいしい。まず、組合員が利用しやすい商品として、カタログGREEN31号より「宮城県女川産銀鮭(養殖)お刺身用100g」、「宮城県女川産銀鮭(養殖)塩麹漬220g(2切)」の2品を取り扱う。

「再開には、生産者の「再び女川の豊かな海で漁業をやりたい」という強い思いや、地域の応援、飼料メーカーなどの協力があつた。同じように工場が被災した「さんま黒酢



フィレ加工までの製造ラインでは厳しい衛生管理のもと、手作業でいねいな骨の除去が行われている

リアス式海岸といわれる複雑に入り組んだ地形や海水温などの環境が銀鮭の養殖に適していたことから、1976年に養殖が始まった。震災の津波によって養殖施設は全て破壊され、生産者は家屋、漁網や漁船を失った。養殖再開には、生産者の「再び女川の豊かな海で漁業をやりたい」という強い思いや、地域の応援、飼料メーカーなどの協力があつた。同じように工場が被災した「さんま黒酢

煮」などの製造メーカー(株)ヤマホンベイフーズの専務山本さんは、「女川の漁業復興のためには鮭の安定した出荷が必須だ。生産者の苦労になんとしても報いたい」と、鮭の水揚げが本格的に始まる2012年5月に加工工場を再建した。生産者の一人、小松啓一さんは「養殖銀鮭が順調に育ち、価格が安定すると、安心して生産が続けられます」と、今回の出荷に復興への希望を託す。



No.62

「外部被曝と内部被曝」

放射能の被曝には2通りあります。外から放射線をあびる「外部被曝」と、体内に放射性物質を取り込んでしまつて内側から放射線をあび続ける「内部被曝」があります。

人は毎日食べものの5.5倍の重さの空気を呼吸によって体内に取り込んでいます。放射能が大気中に放出されると、外部被曝と同時にもっと多くの内部被曝をしまつているのです。

放射線被曝には恐ろしい被害があり、被曝して何年も経ってから現れる障害があります。日本政府の発表で「ただちに影響がない」というのをよく聞きますが、被曝のリスクは低線量でも存在し「これ以下なら安全だ」という値はないのです。

東日本大震災による原発事故で、私たちは放射能汚染と向き合う生活を強いられる事になりました。被曝を避けるためにすべての原発をなくし、安心して暮らしていける新しいエネルギー社会をみんなでつくっていきましょう。

参考文献 「原発のない世界へ」 小出 裕章 著
「原発に頼らない社会へ」 田中 優 著
グリーンコープ共同体組織委員会



とらねこ文庫

廣瀬 美由紀さん

●プロフィール

群馬県生まれ。長崎市在住。
家族は夫、長男(22)、二男(15)。
グリーンコープ生協(長崎)組合員



絵本を楽しむ 絵本でつながる

2000冊の 絵本に囲まれて

「とらねこ文庫」は、廣瀬美由紀さんが自宅の一室で開いている家庭文庫。中に入ると絵本、絵本、また絵本。どれも長男が生まれた頃から20年余りの間にコツコツと買い集めたもの。「とらねこ文庫」と命名したのは長男。お気に入りの絵本「11ぴきのねこ」に出てくる「とらねこたいしゅう」が名前の由来とか。

文庫との出会い

廣瀬さんは、結婚後2年間住んでいたフィリピンのマニラで初めて家庭文庫を知った。日本を離れて暮らす廣瀬さんたちにとって、知り合いの日

絵本のある居場所をつくらう

スイスから帰国後に住んだ金沢市は、図書館が充実し、個人宅や地域の施設を利用した文庫の数も多い街だった。毎週通



おはなしに合わせて、みんなで「びよーん」。教会で開かれた「夏休みおはなし会」のようす。この日は50人ほどの子どもや大人が集まった

つていた家庭文庫のおばちゃんや、「これ、読んでごらん」と勧めてくれた絵本。あまり好きな絵本ではなかった。半信半疑で借りて帰って長男に読んであげると大喜び。本を手渡してくれる人のいる文庫の魅力を知った。文庫にはさまざまな年代の人たちが集まり、本の話だけでなく子育ての経験談を聴けるのも文庫ならではだった。「そこにいけば本がある、人に会える。そんな居場所を自分もつくりたい」。そう思い立った廣瀬さんは、1999年秋、自宅アパートで「とらねこ文庫」を始めた。

絵本の楽しさを もっと多くの人に



2012年春、「とらねこ文庫」は2度目の引越して長崎市へやってきた。「ここでも人とのつながりをつくってあげたい」と語る廣瀬さん。自宅の文庫以外にも、二男が通う中学校の読みかせの会に加わり、学童保育や子育て支援センターでも

おはなし会を開くなど、積極的に出かけていって絵本の魅力を伝えるようになった。
廣瀬さんは毎週通う教会でも一室を借りて、大人も参加できる「絵本の時間」を開いている。「参加した人は全員が交代で絵本を読みます。絵本って一人で読むよりも、他の人から読んでもらうほうが絶対おもしろいから」と目を輝かせる。大人を対象に絵本の講座も開いている。
「子どもたちにとっては、大好きなお母さんやお父さんに絵本を読んでもらうのはとても幸せなこと。読み手にとっても子どもへのいとおしさが増していく素敵な時間。絵本を仲立ちにして楽しいひとときを過ごしてほしい」と語る廣瀬さん。「とらねこ文庫」を真ん中に、たくさんの人をつなぐ輪がどんどん広がっている。
※個人が自宅を開放して図書の見学や貸し出し、おはなし会や読みかせを行う私設の図書館

送信 グリーンコープ生協ふくおか
北九州地域理事長
加島 美香

大学で学んでいることに何かしらプラスになるのでは?という下心満載で、長女と参加したある講演会が、とても印象に残った。小学生が弁当を作ることで、生きる力が身につくこと、食べることを大切にすることは命を大切にすること、ひとり一人がかけがえのない存在であることなどが、複数の講師によって次々と語られた。親として、命を授かった喜びや、子どもを大切に思う気持ちなど、改めて家族の中で話題にしてなかったことが、たっぷり盛り込まれ、わたしが母親になった年齢に、日々近づいている娘と一緒にその講演会を聞くのは、くすぐったいような複雑な思いだった。「今日は、聞いてすごくよかった!」と娘は感想を口にした。なんとなく照れ臭くてそれ以上の会話はできなかったが、感想の続きは、彼女が親になったときに聞いてみようかな?

投稿欄

私の好きなグリーンコープ商品

グリーンコープは我が家の味

今年から二人の娘もひとり暮らしを始め、子ども三人共に他県で自炊生活しています。ひとり暮らしを始め四ヶ月目頃に長女から「からし高菜送って」と連絡がありました。三人の子どもたちがいた頃よく注文していた「ホワイイトソフトマーガリン、バラ辛子めんたい(徳用)、めいわしバター、フレッシュヨーグルト(マイルド)、めあらびきポークステーキ、めあらびきウインナー」と、主人と二人暮らしには必要のない数注文し、早々子どもたちに送りました。「懐かしかった、おいしかったよー」と連絡が来ました。幼い頃から食べている数々に、家を思い出した事とあります。

これからも時々グリーンコープの商品を送り、我が家の事を思い出しながらそれぞれ頑張ってほしいと思います。

グリーンコープがごしま生協 萬福 静子

投稿募集

- わが家のエコ
- 私の好きなグリーンコープ商品
- 250字程度
- 毎月月末
- 住所・氏名・年齢・TEL・所属生協名を明記して郵送またはFAX、Eメールでお送りください。
- 掲載分には図書カード(500円分)進呈。
- 住所・氏名などの組合員の個人情報、本紙に掲載の場合のみ使用します。

〒812-8561
福岡市博多区博多駅前1丁目5-1
ヒューリック博多ビル3F
グリーンコープコミュニケーションワークス
連(REN)「共生の時代」編集部 宛
FAX 092-481-7876
Eメールアドレス rikoho@greencoop.or.jp



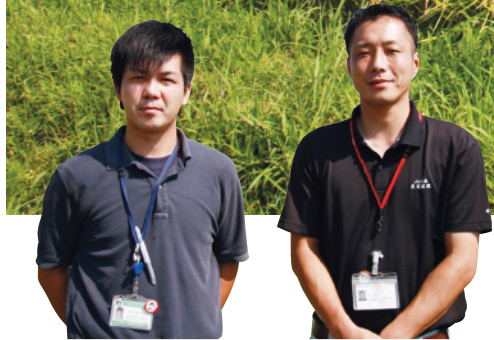
いただきます～す! グリーンコープの産直 赤とんぼ米



グリーンコープの産直米は、赤とんぼがたくさん飛ぶ田んぼを増やしたい、そんな思いを込めて「赤とんぼ米」と名付けています。生産者と話し合っ、減・無農薬栽培をしています。
収穫を間近にひかえた8月末、無農薬米の生産者、福岡県糸島農協の「稲守員」代表 田中幸成さんを訪ね、米作りにかける思いを聞きました。



生産者の田中さん。
今年生まれにみる天候不順に悩まされた。生産者にとっては高温と水不足との闘いだったが、見事に黄金色の稲穂が実った



糸島農協職員の水崎さん(右)と山田さん。生産者をしっかり支える

ご飯1杯は米粒3,000～4,000粒、稲3株に相当する。稲3株が育つ田んぼは、オタマジャクシ35匹が育つ環境を作る。毎日の生活の中で私たちは生きものとながっている



お米はお得な
定期予約が
おすすめヨ

ジャンボタニシを使った
除草の取り組み

「無農薬米の取り組みは、雑草と病虫害との根比べ」と話す田中さんは、「益虫も害虫もいるのが自然界の法則。だからいろんな生きものとの共生が大切だ」と考える。

1980年頃、食用として輸入されたジャンボタニシは、植えたばかりの稲も食べ尽くすやっかいなもの。天敵もおらず、大発生し、池や田んぼを埋め尽くした。田中さんの田んぼでもはじめは人の手で捕獲し駆除していたが、効果がなかった。その頃ジャンボタニシの対策に取り組んでいた、福岡県農業改良普及員だった宇根豊さんと出会い、いっしょにジャンボタニシの習性を活かした除草の方法がないかと考えた。田んぼの水量を少なくして、ジャンボタニシが芽を出したばかりの、やわらかい雑草を食べることで、稲への影響がでないように工夫するなど、環境にやさしい米作りをめざした。

「無農薬で栽培する田んぼでは病気を出さないように肥料を控えるため、他に比べ収穫量が下がる。でも、食べるものは安心。安全が当たり前だから」と話す田中さんの無農薬米栽培への信念はゆるぎがない。

※糸島農協生産者組織の一つ。除草にジャンボタニシ(稲守員)を活用している

2013年8月の組合員数 376219人 (8/20現在)

リユース、リサイクルデータ
2013年7月分(回収率)

リユースびん 回収率 63.9%	トレー 回収率 47.2%
モールドパック 回収率 94.1%	仕分け袋 回収率 8.2%

☆牛乳びんの回収率は
99.6%
牛乳びんは牛乳本来のおいしさや風味を保ち、中が見えて安心。30回以上も使える環境にやさしい超軽量のリユースびんです。

フードマイレージ

2009年9月から2013年8月までに組合員の利用によってたまったのは

262,461,902.9
poco
CO₂に換算して26,246トンを削減したことになります

アジア民衆基金

2009年4月から2013年8月までに組合員の利用によってたまったのは

31,489,315円

元気くんが ゆるキャラグランプリ 2013にエントリー中!!



応援してね!

グリーンコープの
マスコット

元気くんに
清き一票を!!

ゆるキャラグランプリ
2013ホームページ
より投票ができます

<http://www.yurugp.jp/>



赤とんぼ米の栽培基準

毎年、品種・栽培内容・数量計画について、産地と協議を実施。協議に基づいて有機・無農薬・減農薬で栽培されています。

栽培段階	栽培内容	品名
有機栽培 赤とんぼ有機	有機栽培(3年以上、化学合成農薬・化学肥料を使わずに栽培)でJAS法による有機の認定を受けた米	赤とんぼ有機栽培 ○○○
無農薬 赤とんぼA段階	化学合成農薬不使用	赤とんぼA ○○○ (農薬不使用)
減農薬 赤とんぼB段階	種子消毒には化学合成農薬不使用で、収穫までの化学合成農薬成分数は4割以内	赤とんぼB ○○○
減農薬 赤とんぼC段階	種子消毒から収穫までの化学合成農薬成分数は10割以内	赤とんぼC ○○○

※○○○の中に、こしひかり、胚芽精米などの品名が入ります。

Table with 12 columns: 番号, 商品分類, 商品名, 原料産地, 製造地, 製造日・収穫日等, 測定日, 検査法, ヨウ素-131, セシウム-134, セシウム-137. It contains detailed inspection results for various food products, including soybeans, wheat, and oils, with columns for detection methods, results, and limits.

検査結果については、ホームページでも週に一度のペースでお知らせします。表記についてもホームページと同様にしています

●放射性セシウムの基準値について

2012年4月からの国の基準は、一般食品100ベクレル/kg、乳児用食品・牛乳50ベクレル/kg、飲料水10ベクレル/kg以下です。グリーンコープは取り扱うすべての商品や原料について10ベクレル/kgを自主基準とし、10ベクレル/kg以上の数値が出た場合、共同理事会に報告し、取り扱いについて検討・決定することになっています。

●グリーンコープでの放射能検査内容と報告について

検査対象 グリーンコープでは、商品や原料について放射能汚染が心配される地域は関東から東北地方が中心でエリアあるものの、必ずしもエリアを限定して考えるべきではないという判断で、また利用される組合員の心配に対応するためにも検査対象を全国に広げています。また外国産の食品も検査対象にしています。

検査対象 2011年3月11日以降に、生産・製造・保管されていた商品及び原料を順次検査しています。定期的なサイクルで検査を行えるよう年間計画を立てて検査します。

検査機関 2011年10月よりグリーンコープ放射能測定室（福岡市）で検査を開始しました。ただし、グリーンコープ放射能測定室で検査可能な品目数を超えた場合などは、これまでと同様に外部機関に検査を委託することもあります。

検査日 検体を測定した日を記入しています。

検査結果の表記 ヨウ素131とセシウム134、セシウム137の3種類について結果をお知らせします。検出限界値未満の結果については「検出せず（検出限界値未満）」と表記します。「検出限界値」とは、測定において検出できる最小値のことをいいます。放射能の特性として、同じ機器で測定しても検体ごとに検出限界値は変動します。検出限界値未満とは、放射能は0ではなく、放射能は存在する可能性があるということです。厚生労働省から2011年9月29日付けで、検出限界値未満の結果については、測定によって得られた検出限界値を表示するよう通知がなされており、国や自治体から公表される検査結果には、「不検出」や「検出せず」ではなく、検出限界値が表示されるようになりました。